



# 超高齢社会と 農ある暮らし



財団法人 都市農地活用支援センター



この冊子は、定くじの普及宣伝事業として助成を受け作成されたものです。

## 【目次】

### 04 農で広がる豊かなシニアライフ

— 老農の暮らしと新しい家庭 —

佐藤 啓二 (岡山県農業協同組合連合会)

### 08 〈農ある暮らしを楽しむ「サービス付き高齢者住宅」〉

普及・促進の取り組み

おこなふ高齢者住宅推進センター

### 10 [NHK] 歴史的な大転換を見据えて

— 伊丹市の都市農地活用を取り組む —

丸山 優樹 (農研機構)

農研機構 都市農地活用推進センター 代表

### 14 農を活かした生きがい就業

株式会社 トラファクトリー

### 16 地域福祉における園芸療法の展開

津路 入道 (NPO法人 日本園芸療法協会)

### 38 [NHK] 高齢者の住まいの現状と今後の展望

吉村 真 (NPO法人 高齢者住宅研究会)

### 62 [NHK] 都市農地をいかに維持保全していくか

— 都市農地トラストのすすめ —

別所 誠 (NPO法人 トラスト推進センター)

### 67 [ヨコハマ] ラベンターの香る老人ホーム

斎藤 まさる (株式会社 トラファクトリー)

### 78 [ヨコハマ] コレクティブハウスの軌跡に見るコミュニティづくり

宮原 敦子 (NPO法人 コレクティブ・ハウス・プロジェクト)

### 18 紹介事例の類型

### 20 ライフェール (東京都目黒区)

### 26 上布田つどいの家 (東京都目黒区)

### 32 サンリスタ アレーグレふじみ野 (埼玉県ふじみ野市)

### 36 プレジールヴィラ市川 (千葉県市川市)

### 42 生きがい菜園 (東京都小平市)・高齢者農園 (東京都中野区)

### 48 柏北部東地区の「農あるまちづくり」(千葉県柏市)

### 54 やすらぎ農園 (東京都国立市)

### 58 青空ふれあい農園・ハーブ倶楽部 (東京都葛飾区)

### 64 ライフ&シニアハウス港北2 (東京都目黒区)

### 68 グループリビング ルピナス (神奈川県横浜)

### 70 かもん (長崎県佐世市)

### 72 コミュニティハウス法隆寺 (東京都台東区)

### 74 コレクティブハウス聖蹟 (東京都多摩市)

# I 編纂のねらいと特徴

## 1. 都市農地保全に赤信号～失われる高齢者福祉の資源

図1は、三大都市圏特定市における市街化区域内農地（宅地化農地および生産緑地）面積の経年推移を示したグラフですが、1993（平成5）年から2008（平成20）年の間に宅地化農地が半減する一方、生産緑地はほぼ横ばいで推移し、都市内に相当量の農地が保全されてきたことがわかります。

このようにして都市内に残されてきた農地は、都市住民の生活を支え豊かにするうえでの多面的な機能（緑空間、生態系保全、防災空間、市民農園等のレクリエーション、新鮮な野菜等の供給等）を發揮し、近年は農地の保全を求める市民の声も大きくなっています。

ヨーロッパのクラインガルテンなどでは、高齢者福祉の面での役割が高く評価されており、日本でも、超高齢社会となった今、高齢者福祉に役立つ資源としての都市農地活用を真剣に考える必要があります。

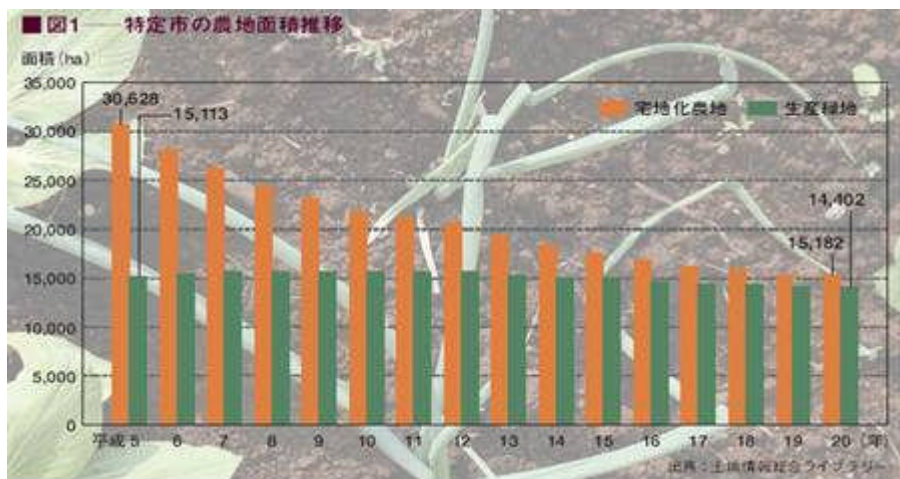
しかし、皮肉なことに、高齢化の進展や人口の減少が農業者自身の高齢化と後継者不足、アパート・駐車場の空き増加等を生み出し、大都市圏でこれまで何とか都市農地の減少を食い止めてきた仕組み（生産緑地制度や総合的な都市農家経営等）がうまく機能しなくなっているのです。

このまま推移すると、10年後、20年後には都市農地の大半が野積み場や駐車場等の低・未利用の宅地に姿を変えてしまい、市街地のなかに季節を感じさせる豊かな農空間が画然として共存・点在するという日本の都市の姿が、過去の記憶のなかにしか存在しなくなるということも十分に考えられます。

これから長く続く超高齢社会の入り口で、高齢者福祉と結びつくことによりその真価を發揮することとなるこうした空間を失ってしまうことは、私たちの社会にとって取り返しのつかない損失になるのではないのでしょうか。

手遅れになる前に、いまこそ、都市農地やそのほかの農的空間が高齢者の生活を豊かにするうえで果たすことのできる役割・効果等について、実態を踏まえたさまざまな議論が惹起される必要があると考えます。

本書はこのような問題意識から、全国で展開されている高齢者が楽しみ、かかわっている「農ある暮らし」の事業、システムについて全国各地で取り組まれている先駆的な実践事例を取材し、その類型・整理を行い、広く関係者の皆さんに情報提供することを目的に編纂しました。



## 2. 「農ある暮らし」で豊かなシニアライフを！ .....

### (1) 高齢者福祉が目指すもの

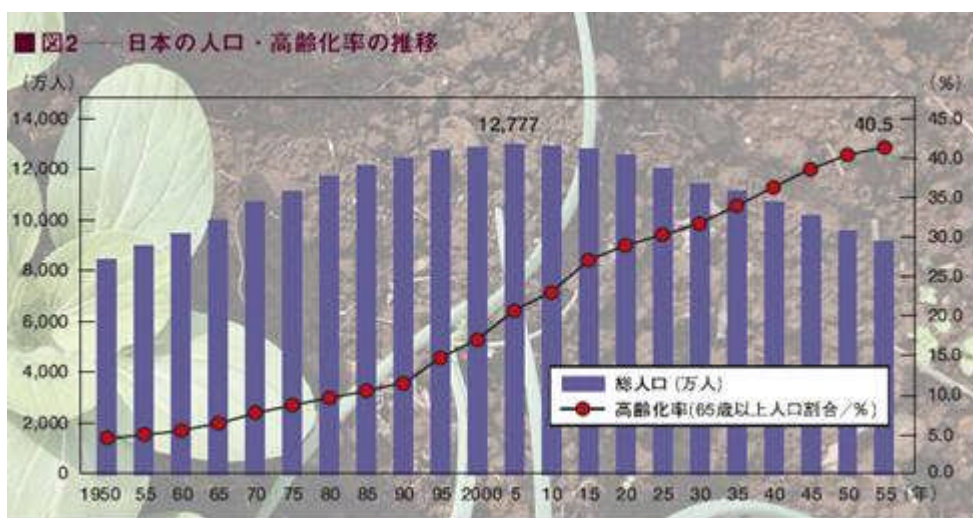
高齢者（満 65 歳以上）が全人口の 7～14 %の社会を高齡化社会、14～21%の社会を高齡社会、21%超の社会を超高齡社会と呼びますが、日本は 1970（昭和 45）年に高齡化社会に、1994（平成 6）年に高齡社会になり、2007（平成 19）年には超高齡社会となりました。

この高齡化社会から高齡社会に移行するまでの年数を見ると、フランス 115 年、スウェーデン 85 年、イギリス 47 年に対して日本はイギリスの半分の 24 年です。

図 2 に示すように、このままの状況が続くと、2055 年には高齡化率は何と 40%になると予想されています。

これからの日本において、皆が智慧を絞り、協力し合って対処していかなければならない最も重要な国民的課題は、多数割合を占める高齢者が地域や社会から孤立することなく、生きがいを持って日々健康に幸せに暮らすことのできる社会をつくることです。

そして、それは介護や医療への社会的な負担の軽減という恩恵をもたらします。高齢者というと、まず介護保険と結びつけた要介護者や要支援者が取り上げられることが多いのですが、介護予防や自立した元気老人を増やすという観点を含め、広い視点からこうした社会をつくるうえで、都市農地や農的空間がどのような役割を担えるかを考えることが大切です。



### (2) 〈農で拓がる豊かなシニアライフ〉という視点

「農ある暮らし」を将来の高齡者像に重ね合せたとき、「農」は自分（たち）が楽しむだけでなく、「社会とのつながりや人間関係を持つため」、「意欲や生きがいを持つため」、さらには「生活に必要な収入を得るため」など、それを媒体にしてそれぞれが個性的で豊かなシニアライフを実現することを可能にするものであるという視点が見えてきます。

また、現代社会で深刻化するさまざまな社会問題の温床となっている「個人のつながりの希薄化」というテーマに関し、高齢者の「農ある暮らし」が契機となって、「多世代の交流拠点づくり」、「地域コミュニティの回復」などが図られている例も数多く報告されています。

本書では各地の事例を取材するに当たり、「高齢化対応=介護・医療」や「リタイア後の趣味としての農」といった固定した捉え方でなく、個人レベルでの生活の充実はもちろんのこと、地域や社会とのつながり・交流を含め、将来に向けたさまざまな可能性を引き出すべく〈農で広がる豊かなシニアライフ〉という視点を掲げることにしました。

### 3. 本冊子で取り上げる事例の範囲 .....

高齢者の「農ある暮らし」の形態としては、一戸建て住宅の敷地で「盆栽・園芸」の延長として行われる菜園利用が最も一般的なものと考えられますが、次の理由から本冊子の主な取材対象からは外すこととします。

一つは、超高齢社会で今後最も重要となってくるのは要介護者や単身・夫婦のみ世帯の高齢者に対する住まいの提供と社会的サポートのあり方であり、このような高齢者の集住する施設や住宅における「農ある暮らし」の先進事例の紹介が大切だと考えるからです。

いま一つは、都市農地問題解決の基本方向として、農地の宅地化を促進するのではなく、宅地と区分して専ら営農に供される“農地”を保全・存続させ、一定の仕組みのもとで都市における多面的な機能の発揮を図るということが求められている、と考えるからです。

このような考え方から本冊子では次の

- ①農地を利用して組み立てられている事業・システム（都市農地利用）
  - ②高齢者の住まい（高専賃や老人ホーム等）と一体となった事業・システム
- を主たる対象として取り上げ、以下の視点の有識者論文を掲載しているのが特徴です。
- ①高齢者の生きがいと就労という視点
  - ②園芸療法の理論・技法等の紹介
  - ③高齢者の住まいとの結合の視点
  - ④その他（農地トラストの提案）

## Ⅱ 代表的な事例の紹介

ライフール（兵庫県伊丹市） .....



1000坪の農園。長い畝の向こうに3階建ての施設が見える



畑で作業を教わる



農園の朝採りの野菜は無人販売に並ぶ

## (1) 事業のきっかけと特色

JR伊丹駅より車で5分のところに農園併設型の介護付有料老人ホーム「ライフェール」がある。2005年10月に開設されたライフェールは、施設に隣接して農園を持っており、1000坪の広さを誇る。

この1000坪は、入居者の農体験エリア、周辺住民の農業体験農園エリア、農地所有者の作付けエリア(ミカン、カボス、ポンカン、イチジク、ミントなどのハーブ)、キウイフルーツの棚植えとシイタケの植菌エリアなど、実に多彩な農体験スポットを備えている。農園部分はすべて生産緑地(2010年、納税猶予適用除外のもの)と恵まれた経営環境にある。

農業体験農園の部分では、果物だけでなく旬の野菜作りも行われ、緑や実りを楽しむ憩いの空間として、施設だけではなく周辺住民にも広く受け入れられている。

賃貸アパートの老朽化と震災に伴う計画構想から実に2年、無農薬野菜に特化して農業を営んでいたオーナーの坂上啓一さん(一級建築士、農家地権者)の永きにわたる夢の結晶でもある。また、その夢を支えた代表取締役を務める妻の坂上智佳子さんは「体験から食卓までがセールスポイント。日々の楽しみや安心感を提供できるわが家のような住まいを提供したいとの一念で取り組んできた。人間を支えるのは食。その食材を主人が思いを注いだ無農薬野菜で実現したかった。“私たちが入ると仮定した幸せな住まい”を作りたかった」と語る。

このライフェールの名の由来には、高齢(ライフエ:熟年)者とその家族に真心込めた最適なサービスを提供し「自然に笑顔ほころぶゆとりある生活(ライフ)を支援(エール)することで社会に貢献したい」という、地権者であり、事業者である坂上夫妻の想いが随所に込められている。

## (2) 農ある住まいの状況

農園付きを唱える本施設は、「自ら農を楽しむ」自立型高齢者がメインのホームである。自立者が半数を占め、要支援と要介護者がその残りとなる。すべて単身の入居者であるが、多彩なイベントやレクリエーションが年間を通じて楽しめるため、入居者や家族からの反応も良好だ。

地域とのコミュニティ形成を目的とした「夏祭り」も単なるイベントの枠を超え、有機農業への理解を深めたり、農業体験農園のPRや周辺住民への施設理解、地域貢献にも結びついている。

### ◆ プロジェクト概要 ◆

<b>所在地:</b> 兵庫県伊丹市春日丘3丁目27-2	<b>居室概要:</b> 全室個室34室(定員34名) 18.49~20.61㎡	<b>事業主体:</b> 株式会社グッドライフ 代表取締役/坂上智佳子
<b>交通:</b> 阪急電車「伊丹」駅から阪急バスで「伊丹坂」まで約10分。→「伊丹坂」バス亭から128m(徒歩約3分) 阪急「梅田」駅から「伊丹」駅まで約17分(急行・準急で塚口駅下車→伊丹線乗り換え) 阪急「三宮」駅から「伊丹」駅まで約26分(特急で西宮北口駅下車→急行・準急で塚口駅下車→伊丹線乗り換え) JR「大阪」駅から「伊丹」駅まで直通(快速)約16分	<b>施設の類型および表示事項:</b> 特定施設入居者生活介護(指定番号2873301481)	<b>所在地/兵庫県伊丹市春日丘3丁目27-2</b> <b>基本財産・資本金/資本金3000万円</b> <b>事業内容/有料老人ホームの経営・運営、不動産の賃貸及び管理</b>
<b>敷地面積:</b> 168299㎡(509坪) <b>建物概要:</b> 鉄筋コンクリート造地上3階建 1棟延床面積167053㎡(505坪)	<b>権利関係:</b> 利用権方式 <b>協力医療機関:</b> 医療法人社団小川医院(内科、消化器科他)、ふるかわ医院(内科)、医療法人中央会尼崎中央病院(内科、循環器科、外科、整形外科、脳神経外科)、東宝塚さとう病院(内科、循環器、外科、心臓血管外科)、医療法人協和会協立病院(内科、外科、整形外科、脳神経外科他)、たつみ整形外科・形成外科クリニック、船井医院(泌尿器科)、甲南デンタルクリニック(訪問歯科)、勝山歯科医院、伊丹中央眼科	<b>基本方針/1. 入居者の個性を尊重し、第二の我が家となるよう家庭的で明るいホームを目指す。</b> <b>2. “豊かな心のふれあい”を合い言葉に、入居者やご家族とのコミュニケーションを図る。</b> <b>3. スタッフは、専門職(プロ)として常にスキルアップに努め、新しいサービスの提供に取り組む。</b> <b>4. 地域との交流を図り、地域に貢献、信頼される運営を目指す。</b>